

国土交通省道路局長 殿



FAX 0993-24-3826

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

鹿児島県指宿市

道路は最も優先的に整備されるべき社会資本であり、東京一極集中を是正し、多軸型国土の形成を図り、活力ある経済に支えられたゆとりある社会を実現するためにも、その整備を緊急かつ計画的に推進する必要があります。

特に地方にとって、道路は、住民の生活はもとより、地域の産業・経済を支える最も重要な基盤施設です。とりわけ、主な交通手段を自動車交通に頼らざるを得ない当市においては、道路の整備に対する依存度は極めて高く、道路網の整備により観光や産業など南薩地域の中核として発展が大きく期待されているところです。

つきましては、今後も道路整備による地域経済の発展並びに住民の生活環境の向上が図られるよう、道路整備に係る財源を十分確保され、早急な道路整備を進めるよう次の事項について提案します。

記

- 1 道路整備を円滑に進めるため、道路特定財源により地方へ配分されてきた総額を確保し、地方の道路整備状況や財政状況の実情を勘案の上、確実に交付すること。
- 2 活力ある地域づくりや都市再生を推進するため、道路整備の促進を図るものとし、「社会資本整備重点計画」に基づき、国民の期待する道路整備を効果的かつ効率的に推進すること。
- 3 地球温暖化対策として、京都議定書目標達成計画の前提として織り込まれている道路整備を推進すること。
- 4 観光振興の支援及び離島半島地域での交通利便性の向上など地域の特性を踏まえた自立的発展の支援、災害に対する防災対策、救急医療への対応及び交通安全対策など安全で安心できる道路整備を推進すること。
- 5 地方道路整備臨時交付金及び国庫補助負担金は、地方の道路整備に重要な役割を果たしてきているが、未だ、地方部の道路は十分とは言えず、その整備は喫緊の課題である。地方の道路整備に支障が生じないよう地方の意見に十分に耳を傾け、地方の自由度の拡大と、より一層の弾力的、重点的運用が可能となるよう努めること。
- 6 生活に密着した県道市町村道の整備を促進すること。

②－１ 地域の現状と抱える課題

鹿児島県指宿市

○現状

本市においては、市内を南北に縦断する国道226号や269号、九州縦貫自動車道へと続く県道指宿・鹿児島インター線など多くの幹線道路が広域圏の交通網として重要な役割を担っています。

なかでも、本市と県都鹿児島市を結ぶ国道 226 号は、住民のたいへん重要な生活道路であるだけでなく、他に代替道路がないため、本市の産業、経済、観光、文化など地域振興の全てを、この路線に頼らざるを得ない状況となっています。

○課題

国道226号は、片側一車線で幅員が狭く、交通量の増加を起因とする交通渋滞が問題になっています。

また、国道269号は、地域住民や山川・根占航路を利用する観光客などが活用する重要な路線であり、利用者の安全性や快適性の向上を図るための整備が求められています。

本市西部と九州縦貫自動車道をつなぐ県道指宿・鹿児島インター線や県道岩本開聞線など、市内外の各地を結ぶ県道やそれらを補完する幹線市道は、交通量の増加や自動車の大型化などにより、改修や拡幅等が必要になってきています。

また、平成6年度より整備を進めている広域農道の全線開通は、広域的な物流の促進や地域住民の利便性向上が期待されているとともに、鮮度が売り上げを大きく左右する農水産物の高速輸送や市場への安定供給を実現するためにも、早期完成が望まれています。

②－２ 地域の目指すべき将来像

鹿児島県指宿市

本市の産業・経済・観光・文化の振興に寄与するため、国道226号の四車線化をはじめ、県道や広域農道等について、国や県などの関係機関と連携し、整備促進に努めるとともに、幹線市道等について、計画的な整備・改修等を実施し、安全で効率的な道路網の構築を推進することとしています。

また、道路は、それ自体が構造物としてみられる対象であると同時に、美しい景観を体験するための場を提供するものであることから、本市の持つ地域資源と結び付けて整備することで、景観や快適性の向上による美しく活力ある道路づくりを目指します。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

様式 ④

鹿児島県指宿市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	本市は、開聞岳や長崎鼻、池田湖、知林ヶ島などの景勝地を有し、天然砂むし温泉をはじめ豊富な温泉湧出量を誇り、年間 300 万人を超える観光客が訪れる県内有数の観光地です。また、肥沃な大地にも恵まれ、ソラマメ、オクラ、実エンドウ、サツマイモなど、全国トップクラスの生産量があり、日本の食料供給基地としての役割を担っています。 一方、本市と県都鹿児島市を結ぶ国道 226 号は、住民のたいへん重要な生活道路であるだけでなく、他に代替道路がないため、本市の産業、経済、観光、文化など地域振興の全てを、この路線に頼らざるを得ない状況となっています。 しかし、国道 226 号の道路事情、特に交通量の多い鹿児島市～本市間については、海と崖に挟まれており、幅員が狭隘な区間や急カーブの区間が多く、災害・事故が頻発し、朝夕の通勤時間帯や休日、イベント時などの渋滞が慢性化しています。そのため、鹿児島市をはじめ他都市とのアクセスが非常に悪くなり、本市の生活、産業経済、観光にとって、非常に大きな制約要因となっています。 これらのことから、本市としては、国道 226 号の四車線拡幅改良等の整備促進を強く要望しています。 また、本国道は海沿いの非常に景観のよい湾岸道路であり、桜島～鹿児島～指宿～南薩の各ブロックを結ぶ日本風景街道「かごしま風景街道」にも登録されています。	・住民の生活道路の機能が強化されることで、日常生活が改善し、活性化が図られることで、地域全体の産業・経済・観光・文化の発展に大きく寄与します。 ・災害時など緊急輸送機能が強化され、住民の安心・安全の確保が図られます。 ・時間短縮や定時性の確保により、観光地としてのイメージアップが図られ、鹿児島県全体や南九州観光の魅力向上に寄与します。 ・高速性が向上することで、農水産物の輸送に係る時間やコストの短縮が図られ、食料供給基地としての競争力が高まります。 ・利便性の向上により、企業誘致が進むなど産業・経済の振興対策となります。 ・県都鹿児島市までの時間短縮により通勤圏域が広がることで、観光などの交流人口のみならず、定住人口の増加が期待されます。	